

富山市立図書館

図書館だより

第2号



目次

富山市立図書館のホームページができました！.....	1
図書館探検.....	3
レファレンスあれこれ.....	5
私のおすすめ本.....	5
山田孝雄文庫の資料 2.....	6
蔵書点検の報告.....	7
編集後記.....	7

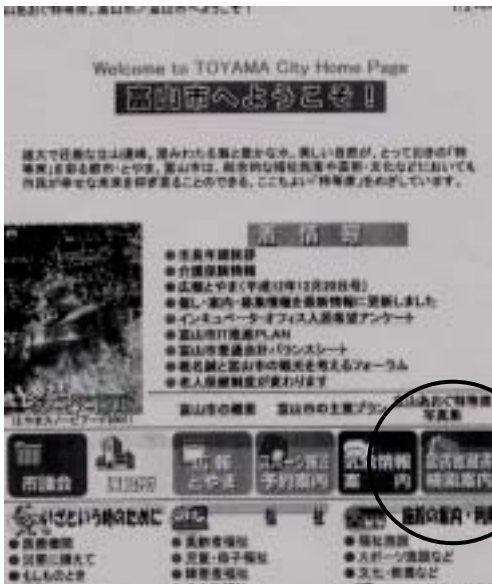
ご存知ですか？

累積 20.095 件のアクセス！

(平成 12 年 7 月 21 日～12 月 31 日)

富山市立図書館のホームページができました！

自宅や職場にしながら、富山市立図書館の本が検索できます。
方法は簡単！ インターネット接続のパソコンがあればOK。

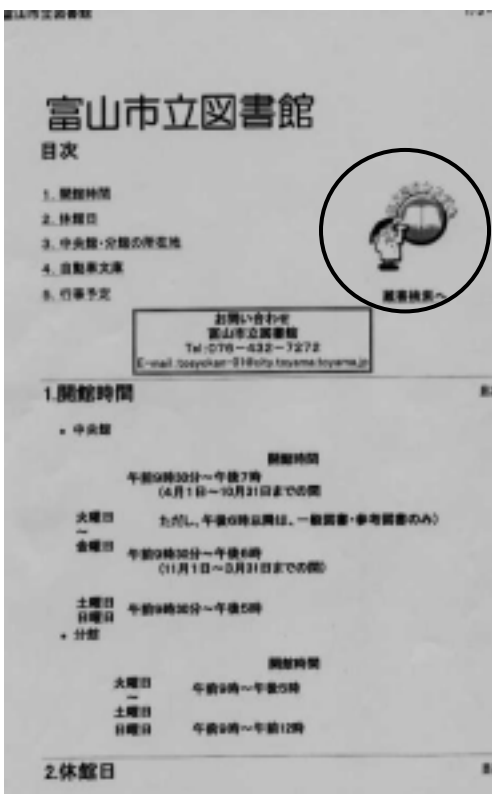
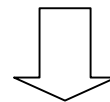


(1) 富山市のホームページを開きます。

アドレスは

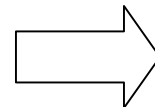
<http://www.city.toyama.toyama.jp/>

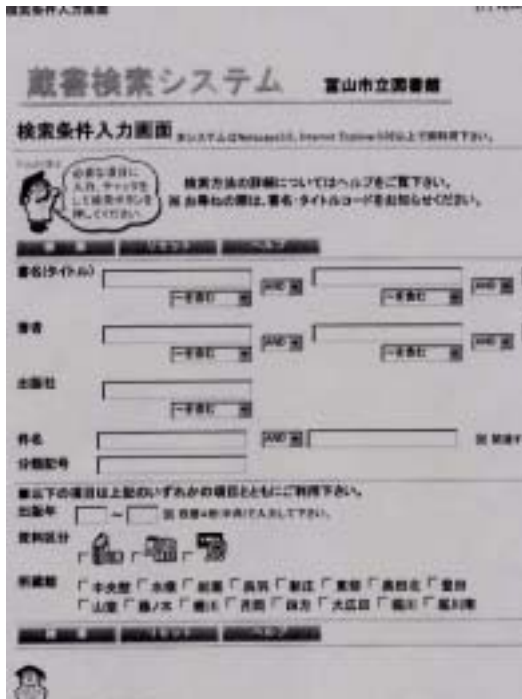
(2) 「図書館蔵書検索案内」をクリックします。



(3) 「富山市立図書館」の画面になります。

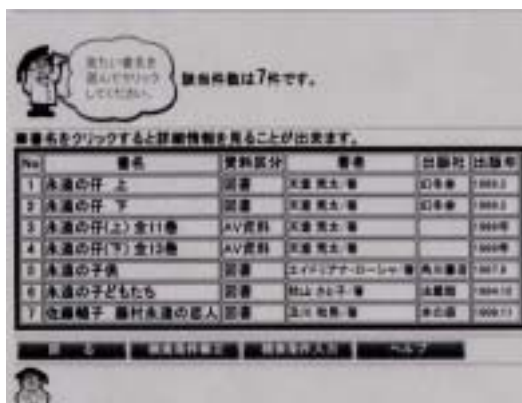
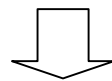
右側の「蔵書検索へ」をクリックします。





(4) 「蔵書検索システム」の画面になります。

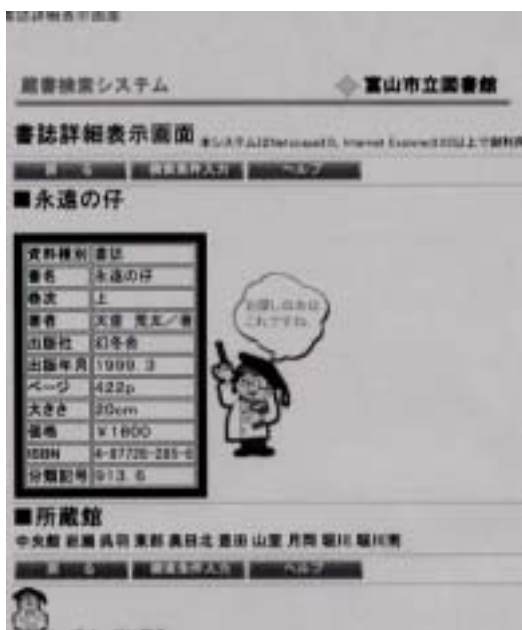
必要事項を入力し、「検索」をクリックします。



(5) 富山市立図書館に所蔵の有無や所蔵館がわかります。

ごらんになりたい本がありましたら、カウンターで気軽におたずねください。おたずねの本の現在の状況をお調べします。

貸出中のときは、予約できます。



！ ヒント

図書館の本は、分類順に配列されています。同じ言葉が書名に含まれていても、内容によって、並ぶ場所がちがうことがあります。

(例)

- 『インターネットウラ技テクニック』 547.48
- 『インターネット犯罪帝国』 368.66
- 『インターネット時代の英語術』 830
- 『インターネットビジネス会社情報』 007.35

図書館探検

青少年図書室



青少年図書室には、南側に児童書、北側に文庫本・新書・演劇や音楽資料・音と映像資料としてCD・ビデオテープがあります。CD・ビデオテープは、合わせて3本まで1週間貸出しています。まだご利用でない方は、いちど5階までおいでください。気付かなかった出会いがあるかもしれません！！

青少年図書室の児童サービス

「この本おもしろかったよ。」という声を励みに、子どもと本を結びつけ、子どもに読書の楽しみを伝えるため、次のようなサービスをしています。

1. おはなし会

- ・毎月第3木曜日(8月を除く)に開催しています。
- ・プログラム
 - 語りつたえられた昔話などの素話
 - 絵本の読み聞かせ
 - 紙人形劇
 - 紙芝居
 - 楽しい本の紹介



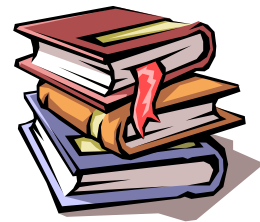
2. 「としょかんだより」の発行

- ・子どもたちが読んで面白かった本の紹介文、新刊紹介、郷土の行事案内、クイズ等、盛りだくさんの紙面です。



3. ブックリスト「ビーだま」の発行

- ・前年度に出版された児童書の中から、子どもたちが優れた本と出会うことを願って、図書館が薦める本のリストです。
- ・絵本版、小学校低・中・高学年、中学生向けと、4種類に分けて紹介しています。



4. 学級招待

- ・小学校2年生のみなさんにクラス単位で図書館へ来てもらい、図書館の利用方法や「おはなし会」を通して、本の調べ方や読書の楽しさを体験してもらいます。
- ・その後、貸出利用カードを発行し、好きな本を選んで借りてもらいます。
- ・平成12年度は、市内の小学校25校から56クラス約1,850名の参加がありました。

5. 学校訪問

- ・小学校の1～2年生の教室へ出かけ、素話や本の読み聞かせ、数冊の本の内容紹介をし、読書への興味を図ります。
- ・読み聞かせをした本や内容紹介をした本は、1ヶ月教室に置いておき、子どもたちにゆっくりと手に取って読んでもらっています。

6. 展示会

「読んでみよう子どもの本の展示会」

- ・5月の「子どもの読書週間」に合わせて、前年度に所蔵した本の中から、優良児童書を約300冊展示します。
 - ・子ども文庫を開設しておられる方や学校司書の皆さんにも活用していただいています。
- #### 「子どもの本貸出ベスト100」
- ・秋の読書週間に合わせて、4月から9月まで、最も貸出された100冊の児童書を展示します。
 - ・人気のある本から、社会の変化を垣間見ることができます。

レファレンスあれこれ

Q 本の中で「蛇歳神」という言葉を見たが、意味を知りたい。

A 「蛇歳神」という言葉では、いずれの事典からも検索できませんでした。

『広辞苑』『日本国語大事典』『日本民俗大事典』などによると、「歳神」(トシガミ)とは、「年神」とも書き、五穀を守るという神として正月に迎え祭る神であり、「歳徳神」(トシトクジン)あるいは「正月様」のこともさすことがわかりました。また、『ものと人間の文化史 32 蛇』には、各地に「歳神」があり、共通点として、一本足である 海または山からくる蓑笠をつけている、があり、正月に「歳神」として迎えられる祖霊は「蛇」であると考えられる、と記載されています。

(北山：中央館勤務)

Q 地縁団体として許可を受ければ、町内会名義で土地・建物の登記ができると聞いたが、どのような手続きをしたらよいか。

A 『現代法律百科大事典』で「地縁による団体」の項目を見ます。住民の地域的共同活動を行なう団体、いわゆる自治会や町内会のことを指しますが、これらの団体には、一般には不動産登記等を行なう権利能力がありません。しかし、市町村長の認可を受けることによって、その権利を得ることができます。もちろん一定の要件を満たす必要があります。具体的には『自治会、町内会等法人化の手引き』に詳述されています。

また、『町内会・自治会の新展開』『町内会物語』『これからの町内会・自治会 いかしあいのまちづくり』なども参考になります。

(山崎：中央館勤務)

私のおすすめ本

『わたしのブラジルまったり生活』 八木敦子著 檸檬新社



生活習慣や言語の異なる地を見聞する旅行なら楽しいが、そこで夫と共に農場を建設するとなると話は全く違ってくるはずである。

本書は副題に「スーパーラテンの国で、ウルトララテンに生きた海外駐在夫人の牧歌」とあるが全く誇張無しの内容である。

舞台となる農場は日本のちょうど裏側、飛行機を乗り継いで約 30 時間のブラジルにあり、首都ブラジリアからさらに 300 キロ離れた僻地である。その面積 11,000 ヘクタール、東京の山手線の内側の約 1.5 倍。当然電気はない、自家発電の電力は夜の電灯用だけ、それも夕方 6 時半から 9 時半までの 3 時間だけ。この電灯も著者の到着 1 週間前に漸く灯ったのである。電気がなければ電話もない、電話連絡と買い出しには一番近い町まで 30 キロの道程となる。

このような土地で農場を開拓しながら大豆やとうもろこしを植え、肉牛を放牧し、コーヒーの木を栽培する。当然パワーが必要になる、その食材

は鶏、豚、牛肉は当たり前、はてはアルマジロ、アリクイ、バク、ピラニアの登場となる。調理方法とその味は読んでのお楽しみ。1987年念願の電気が来る。さらに農場従業員の子供のために小学校を開校する、隣町の市長と警察署長の依頼があ

れば町のガキ大将も受け入れるまでに拡大した1992年2月、帰国令が届く。

帰国を忘れるほどに地元に馴染んでいた、7年4ヶ月の海外駐在夫人の奮闘記。

(小川：水橋分館勤務)



山田孝雄文庫の資料 2



『方丈記』

鴨長明著 〔室町末〕

25.0×18.4 cm 墨付12丁 每半葉10行

28字内外 楮紙（全丁に裏打ち）

第1丁第1行に「鴨長明方丈記」とあり、

第2行から本文が始まる。また末尾（第12丁表）に

「戊戌年三月廿八日」とある。

方丈記の伝本のうち、現存最古の写本といわれているのは「大福光寺本」（京都府大福光寺所蔵の卷子、重要文化財）です。

大福光寺本がはじめて世に紹介されたのは、大正14年古典保存会刊の複製においてでした。大福光寺本の発見は、方丈記を後代の偽書とする説に事実上の終止符を打つことになりました。そして、その解説の筆をとったのが山田孝雄です。

どの伝本でも不明箇所や欠落したところが多少あるものようで、いくつかの伝本を比較して、誤脱を正し、原本の本姿に返そうとするのが校訂という手続きです。山田孝雄校訂岩波文庫版方丈記（昭和3年刊）の解題で山田孝雄は、大福光寺本を底本とし、「余が蔵する慶長若しくはその前なるべき片仮名古写本を以てその誤脱を補ひたり」といっています。

この山田孝雄旧蔵本は、大福光寺本と同じく、カタカナ書きです。大福光寺本とともに古本系に属すものと認められています。

(亀澤：中央館勤務)

蔵書点検の報告

富山市立図書館では、平成 12 年 9 月 26 日から 10 月 5 日にかけて、蔵書点検を行いました。

毎年 1 回行なっているこの作業は、図書館に所蔵している、すべての本のバーコードを 1 冊 1 冊機械で読み取って所在を確認していくという、根気と体力を要する作業です。こうする事によって、本の在否が明らかになり、また、間違っただけで棚に並べられていたため、行方不明と思われていた本が見つかることもあります。

かつては「曝書」(ばくしょ)と呼ばれ、棚から本をおろして虫干しすることによって、紙魚(しみ)の害を防ぐという意味もありました。(現在では空調設備が整っており、虫干しの必要はありません。)

今回の蔵書点検では、約 58 万冊の本の確認作業を行ないました。また、約 1400 冊の本が行方不明になっていることが判明しています。必ず貸出手続きをしてから、持ち出してください。蔵書点検と同時に、市内の 14 の分館で、相互に本の交換を行いました。これによって、分館の蔵書は目新しいものになっています。(舟山：中央館勤務)



編集後記

図書館の目録が電子化されて、キーワードによる検索がすこぶる容易になった。よくぞこういう本を探してくれたと、感心されることもあるが、なんのことはない、キーワードを一つ、機械に入力しただけだ。分類体系の中に分け入って探し出してきたわけではない。今や世界はデジタル化。分類し、体系づける作業は、それ自体意味を失っていくのだろうか。と、このごろ妄想しています。(山崎)

暖冬の予想に反して、県内では所により 1メートルを超える積雪となり、道路や交通機関に大きな混乱を生じた。混雑した車内でイライラしていた人も多いのではなかろうか。こんな時、車内アナウンスのちょっとした心遣いが心を和らげるものである。私たち窓口立つものとして、暖かい気配りのあるサービスを心がけたいと思う、このごろである。(北山)

今回の図書館だよりでは、パソコ

ン上でのレイアウトを担当しました。頭の中のイメージをなかなか画面上に表現できず、悪戦苦闘の連続。やはり美的センスの問題でしょうか?(舟山)

むかしは、夜があけるのも忘れ、読書に没頭したのですが、最近は数行読むと眠ってしまいます。

面白い本が少なくなったのか、それとも年をとるにつれ感受性がなくなっていったのでしょうか?

(牧田)

平成 13 年 1 月 31 日発行

富山市立図書館

富山市丸の内 1 丁目 4 - 50 TEL/FAX:076-432-7272

富山市ホームページアドレス：<http://www.city.toyama.toyama.jp/>

図書館アドレス：<http://sv06.city.toyama.toyama.jp/>

E-mail：tosyokan-01@city.toyama.toyama.jp